

ともに生きる社会

6

こまっている人はいないかな？

1 ねらい

社会には、多様な人がともに暮らしているということに気づく。誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする気持ちを養う。

2 準備するもの

- ワークシート
- ワークシートのA～Cのマークを拡大したもの（黒板掲示用）
- ワークシートのイラストを拡大したもの（黒板掲示用）

3 解説

社会には、国籍、宗教、年齢、性別など、「ちがい」のある様々な人が暮らしています。他の人と「同じ」であることを重視し、多数者を中心に考える社会では、少数者が不利益を被ったり、「ちがい」が差別や排除につながったりするおそれがあります。誰もが一度は自分が少数者になったり、人とちがったりして不安を感じたことがあるでしょう。子どもたちには、相手の立場に立って考えたり、「ちがい」を理解したりして、多様性を認め合える人になってほしいと願っています。

このワークでは、トラブルが起きた時に「困っている人はいないかな」という視点で、周りの人たちの様子を見ることから始まります。そして、相手の立場に立ち、「安心して目的地に行くために」「分かるように伝えるために」はどのようにしたらよいか解決方法を考えていきます。個人やグループで解決方法を探っていく中で、お互いの意見のちがいを認め合う姿勢や、様々な立場の人を想定し親切にしようとする心情の育成を目指します。

4 進め方（展開例）45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 7分	<p>◆学習の確認（1分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（6分）</p> <p>「このマーク知っていますか？」</p> <p>①A～Cのマークについて、見かけた場所や何を表しているかを考え、ワークシートに書く。</p> <p>②A～Cのマークの名前と意味を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A～Cのマークを黒板に掲示する。 ・マークの表す意味が分からない児童には、デザインから思い浮かぶことを書くように伝える。 ・実生活につなげて考えられるよう「マークを見かけた時に、周りの人ができることは何か」についても全体に投げかけ、資料1を参考に具体的な事例を挙げる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるマークについて知り、周りの人がその意味を理解し、必要な配慮をすることの大切さに気づく。 ・様々な人の人権を守ろうとする意識とともに、これらのマークを見かけた時に、自分ができることは何かを考え行動しようとする意欲を育てる。 	

<p>展開 33分</p>	<p>◆アクティビティ (33分) 「こまっている人はいないかな？」</p> <p>①場面の状況を聞く。</p> <p>②イラストの中で、移動するのに困難を感じるのはどのような人なのかを考え、その人たちが安心、安全に目的の場所に行くための方法や対応とともに、ワークシートに書く。</p> <p>③話が伝わっていない(?マーク)人は、どのような人なのかを考え、その人に分かるように内容を伝えるためには、どのようにしたらよいかとともにワークシートに書く。</p> <p>④②③について、グループで意見交換をする。</p> <p>⑤④について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 4人程度のグループで行う。 • イラストを黒板に掲示する。 • できるだけ多くの考えを書くように促す。 • 出された意見は肯定的に受け止めるよう促し、自由に意見が出せる雰囲気をつくる。 • 自分の意見と異なる場合は、ワークシートに追加して書くように伝える。 • ②③とともに、人によってニーズが異なるため、本人の希望を聞いたり、その場の状況を考えたりして、その人が必要とする配慮や支援をすることが大切であることを補足する。 • グループの意見交換の様子を把握し、多様な意見が出されるように指名する。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> • まとめの話を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> • 高齢者や、乳児を抱えた人、車椅子に乗っている人など、混雑している状況や段差がある場所では移動が困難な状態の人がいることに気づく。 • 自分たちが当然のように聞き、理解している日本語のアナウンスが、外国の人や聴覚に障害のある人など、受け取る人によって正しく伝わらない場合があることに気づく。 • 社会には多様な人が暮らしていることをふまえ、事故や災害時などに限らず日常生活の場面でも、お互いに相手の状況や気持ちを理解し、配慮や協力などを行うことが大切であることに気づく。 </div> <ul style="list-style-type: none"> • ふりかえりをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業を通して児童から出された意見などをもとに、ねらいをおさえまとめる。

このマーク知っていますか？

()年 ()組 名前 ()

A～Cのマークについて、「どのような場所で見かけるか」「どのようなことを表しているか」など知っていることや思いうかぶことを書きましょう。

A



B



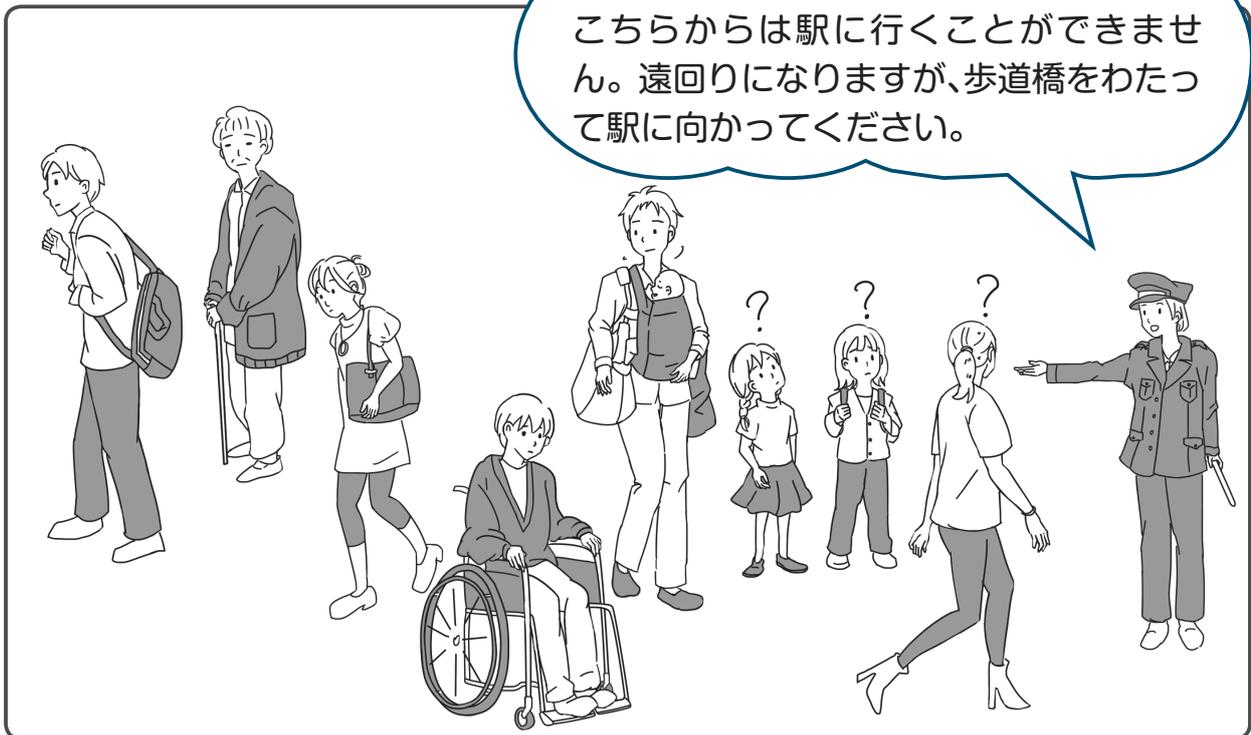
C



こまっている人はいないかな？

道路が通れなくなったため、歩いている人たちに向けて、お知らせをしています。

この先の道路は通行止めになったため、こちらからは駅に行くことができません。遠回りになりますが、歩道橋をわたって駅に向かってください。



1 イラストにかかれていまする場面で、移動するのにこまってしまうのはどのような人だと思ひますか。また、その人たちが行きたい場所に安心して安全に行くことができるようにする方法を考へましょう。

どのような人	安心して安全に行くことができるようにするための方法

2 「?マークの人」は、話の内容が分からず、こまっているようです。「?マークの人」は、どのような人だと思ひますか。また、その人たちに、話の内容が分かるように伝える方法を考へましょう。

どのような人	分かるように伝える方法

3 今日の授業を通して考へたことや、気づいたことを書きましょう。

資料 1

このマーク知っていますか？



A 高齢運転者標識
自動車運転免許を受けている人で70歳以上の人は、加齢に伴って生ずる身体機能の低下が自動車の運転に影響を及ぼすおそれがあるときには、普通自動車の前面と後面の両方にマークをつけて運転するように努める。周囲の自動車の運転者は、危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークをつけた自動車に幅寄せや割込みをしないなど、安全に通行できるよう配慮しなければならない。
「高齢運転者標識を活用しよう！」警察庁ウェブサイト



B マタニティマーク
妊産婦が交通機関などを利用する際に身につけ、周囲が妊産婦への配慮を示しやすくするもの。また、交通機関、職場、飲食店などが、呼びかけ文を添えてポスターなどとして掲示し、妊産婦にやさしい環境づくりを推進するものである。
「マタニティマーク」厚生労働省ウェブサイト



C 「みんなのトイレ」の推奨マーク
神奈川県では、平成14年4月1日から、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、障害者、高齢者はもとより、だれもが円滑に利用しやすいトイレとして、「みんなのトイレ」を定め、整備を進めている。「みんなのトイレ」では手すり、洗面器、鏡、オストメイト対応の水洗器具などを適切に配置するほか、異性による介助の場合にも配慮し、男女共用としている。マークには県の鳥「かもめ」をデザインし、県条例に基づくトイレであることを表現している。

資料 2

ワークの回答例

1の回答例

- ◆車椅子に乗っている人
 - ・段差があるところは通れないため、スロープのある道やエレベーターを案内する。
- ◆杖をついている人
 - ・早く歩くことが難しいため、ゆっくり歩けるように道をあける。また、手すりのある側を通れるように配慮する。
- ◆子どもや荷物を抱えている人
 - ・長い距離や段差を歩くことが大変であることも考えられる。状況によって声をかけ、荷物を持つなど必要なことを聞いてサポートする。

2の回答例

- ◆聴覚に障害のある人
 - ・文字で書く。口の動きが分かるようにはっきりと伝える。手話で伝える。
- ◆日本語が分からない人
 - ・ジェスチャーやイラストで表す。やさしい言葉に言い換えて伝える。
- ◆幼児や小学校低学年の子ども
 - ・やさしい言葉に言い換えて伝える。